

ハタロー

第91号

生涯学習情報

◎連絡先◎
生涯学習課
☎(20)1559



茂原七夕まつり

ゆかた／げた

昭和27年に1町5村が合併して茂原市が誕生しました。その2年後の昭和29年に榎町商店街の活性化のために七夕まつりを開催しました。大変なにぎわいでしたので、翌昭和30年に茂原市を挙げての第1回茂原七夕まつりが開催されました。そして、今年で64回を数えます。

七夕と言えば、ゆかたとげたを懐かしく感じる方も多いのではないのでしょうか。そんな昔を思い出して尋ねてみました。



▲第30回茂原七夕まつりの様子

右の写真は最近の七夕で見かけた若い人のゆかた姿です。ゆかたは浴衣と書き、古くは湯帷子(ゆかたびら)と呼ばれ、風呂上りに着た衣でした。今は木綿の単衣で、夏のおしゃれ着のようです。最近の本には遊衣との表記もあります。

今、鶴枝公民館の活動で「和裁クラブ」があり、ゆかたも縫っているとのことなので取材をして来ました。



ゆかた

回を重ねるごとに盛大になり昭和53年からは、藻原おどり(現在のもばら阿波おどり)や、小学生の鼓笛隊や婦人会の踊りなども出てにぎやかです。そして平成12年からはちばYOSAKOI夏の陣が開催されて活気が出てきています。

近頃はキッチンカーも並び、ご当地グルメも楽しめます。

〇肌着からゆかたに

和裁の基本は肌着から始まって裾よけ、長襦袢、ゆかたの順で習っていくそうです。クラブのメンバーは身内の遺した着物を自分に合うように仕立て直したり、孫のゆかたや、茶道を始めた娘の着物を縫ったりと、活動はさまざまでした。先生の指導を受けながら、それぞれ熱心に縫物をしていました。その凛とした雰囲気や、遅れて来た人が丁寧に挨拶している光景を見て、和裁を習うことの奥深さを感じました。



50年前に電子管工場の寮生だった主婦に聞いてみました。

私とゆかた

会社に入社して、女子寮に入りました。寮では生花やお茶、裁縫を習うように、と会社で、その道の先生を用意してくれました。

私はゆかたを縫うことを選び、交替勤務に就きましたので、休日や交替勤務の合間に和裁の先生の家に習いに通いました。寮の友達も何人が習ってゆかたを完成させました。

七夕の日に、そのゆかたを着て寮の友達と街をぶらぶらしたのが、昨日のように思い出されます。

